

参考資料 2

第2回
熊野川懇談会設立準備会

熊野川流域の留意事項

参考資料 2

熊野川流域の
留意事項

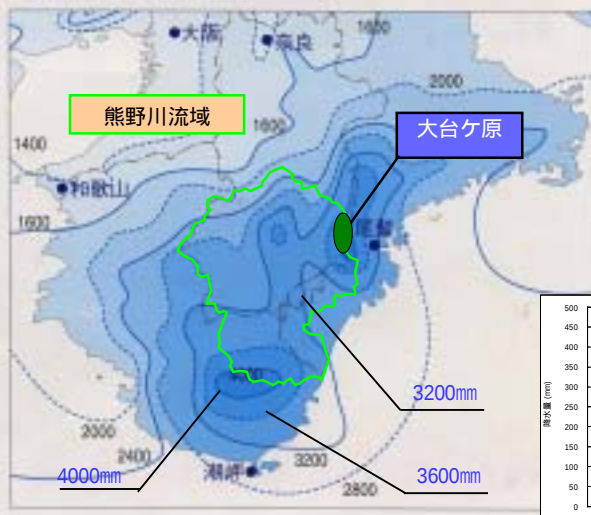


1. 治水上の留意すべき事項



日本有数の多雨地帯

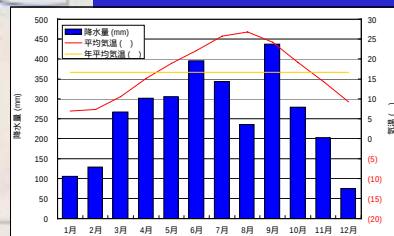
年間降水量分布図(mm) (平均値) 1890 - 国土の豊凶とそとの幸



日本有数の多雨地帯
(大台ヶ原)を源に持つ

年平均降水量：
3,000mm

年平均気温16.7
年間降水量は概ね3075mm



(1979 ~ 2000気象台資料)

浸水被害

熊野川



昭和34年9月
(伊勢湾台風)

被害状況	
死者等	5名
全半壊等	498戸
床上・床下浸水	1,883戸

市田川



平成9年7月(台風9号)

市田川被害状況	
床上・床下浸水	1,011戸

相野谷川

平成13年8月(台風11号)



相野谷川被害状況

床上浸水	71戸
床下浸水	29戸
浸水面積	161ha

河口砂州、河床変動

熊野川の河道には砂礫が堆積した箇所が多く、
河口には砂州が発達しています。

河道に堆積した砂礫
(中流部)



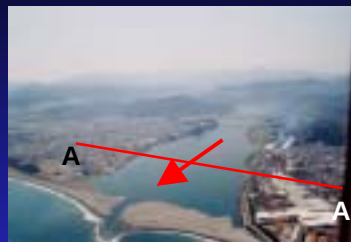
河口に発達した砂州



熊野川堤防と破堤被害(1)

熊野川本川(河口付近)

横断面位置図



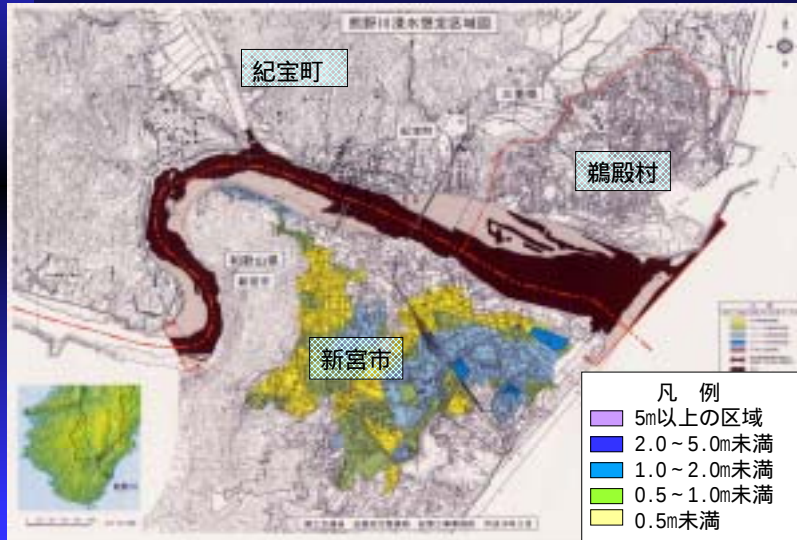
地形横断面図



熊野川堤防と破堤被害(2)

浸水想定区域に含まれる市町村:新宮市

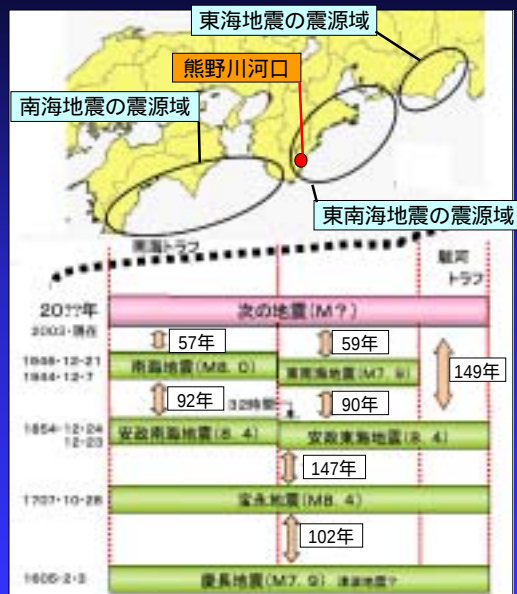
浸水面積:約330ha、影響を受ける人口:約17,000人



東南海地震

東南海地震の地震発生確率

今後30年以内の東南海地震の発生確率は50%です。



2. 利水上の留意すべき事項



濁水の長期化

熊野川の本川においては、洪水後しばらくの間、ダム湖に溜まった濁水が発電所を通して直接下流へ流れ込みしばしば問題となっています。

発電所からの濁水



1991.7.13 紀南新聞

観光舟運(瀬峡・カヌー・その他)

瀬峡等において観光筏下りやウォータージェット船など観光舟運行われている他、熊野川や北山川においてはカヌーが行われています。

観光筏下り



ウォータージェット船



筏下り写真: 昭文社「旅王国・南紀 伊勢・志摩」より

利水ダム施設(猿谷ダム、発電ダム等)



猿谷ダム
(国土交通省)



池原ダム
(電源開発)



3 . 自然環境の留意すべき事項



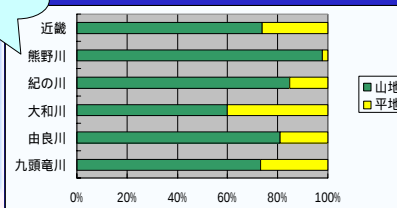
近畿の屋根、圧倒的な山地割合



流域は急峻な山地で構成されている。(2,360 km²)
 山地:約98%(2,303 km²)
 平地:河口付近のわずかに広がっている。(13.6 km²)

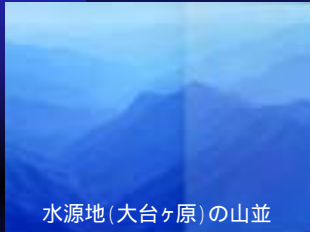
熊野川は他の河川と比較しても山地が占める割合が多い

他河川との比較



美しい自然景観

人のあまり入り込んでいない熊野川流域には、数多くの美しい自然景観が残されています。



水源地(大台ヶ原)の山並



奥漣峡



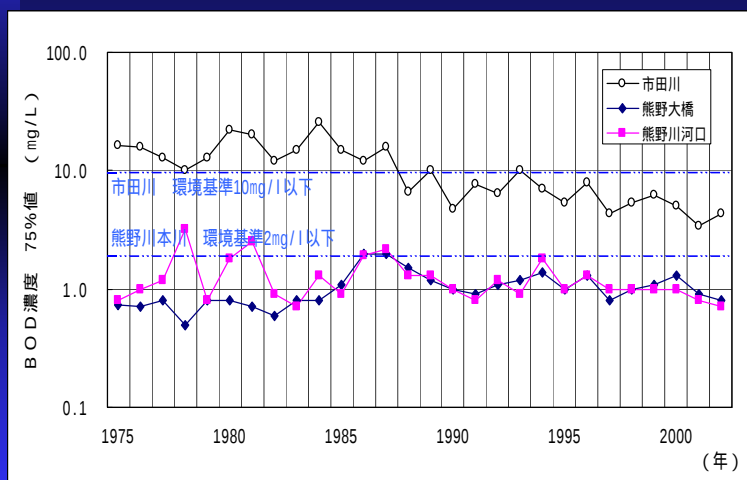
漣八丁(国指定天然記念物)

郷土史資料辞典 和歌山県・人文社、その他

市田川の水質問題

水質の状況(BOD)

市田川は1990年以前には、環境基準を越えていましたが90年代になると環境基準を下回る水質となってきました。



きれいな水と豊かな生態系

流域の植物

山林が流域の97%を占め、温暖多雨の南海気候に属し全国有数の多雨地帯です。標高も0mから2000m近い高地まで含むため温暖帯、冷温帯、亜高山帯の3つの気候帯が存在し、変化に富む植物相となっています。

オオヤマレンゲ



トガサワラ



出典 トガサワラ: 中村木材HPより
オオヤマレンゲ: 村上顕裕氏HPより
シラビソ: 耕納喜男氏HPより

流域の動物

豊かな自然に恵まれた熊野川流域には、ニホンカモシカやイヌワシ、イワナ等の貴重な生物が生息しています。

ニホンカモシカ



イヌワシ



イワナ



出典
ニホンカモシカ: TBSインバク・生物図鑑HP
イヌワシ: <http://www.wnn.or.jp>より
イワナ: 琵琶湖博物館HP・仮想見学ツアー
オオダイガハラサンショウウオ: 和歌山県・環境生活総務課・保全上重要なわかやまの自然

4. 社会環境の留意すべき事項



世界遺産(熊野古道<川の参詣道>)

熊野古道(紀伊山地の霊場と参詣道)

熊野本宮大社と各地を結ぶ熊野古道は現在「紀伊山地の霊場と参詣道」として、世界遺産暫定リストに記載されています。



熊野川

熊野川は熊野本宮と速玉大社を結ぶ参詣道に河川で唯一指定されている。



熊野速玉大社

深い歴史と伝統文化(熊野三山等)

古い歴史を有する熊野川流域には、熊野本宮大社、熊野速玉大社等の史跡があります。



熊野本宮大社



熊野速玉大社

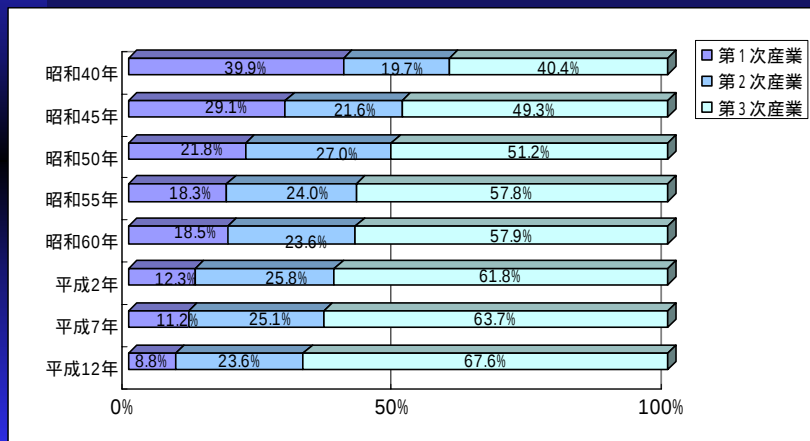


除福公園(新宮市)

林業の衰退

産業

産業別就業者数比率の推移をみると、農林水産業から3次産業へと産業構造が変化しています。

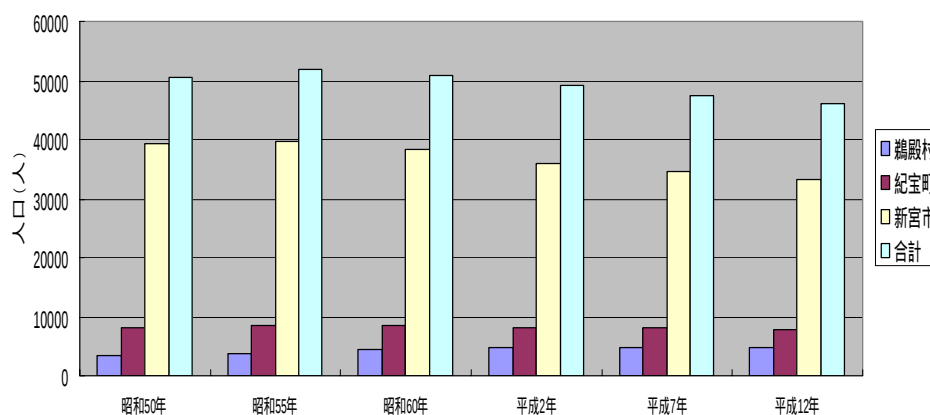


流域人口の減少

人口は昭和55年以降減少傾向にあります。

流域内市町村： 3市7町8村
流域内人口(H15)： 約 84,000人

人口の推移



砂利採取

採取のピークは昭和46年で約26万m³の採取が行われていました。
現在では、直轄区間では砂利採取は禁止されましたが、県管理区間では砂利採取が行われています。

